

巻頭言

マナー

石垣 武男

ある日曜日のこと。テレビで男子ゴルフのトーナメントを観ていた。いま話題の石川遼君と外国のプレーヤB・ジョーンズとが首位どうして優勝争いをしていました。最終ホールの手前17番ホールでB・ジョーンズがバーディーパットを決めれば単独首位となる場面でカップをはずした。そこで周りを取り囲む観客からパチパチと拍手。アナウンサーと解説者が「ここで拍手をするようなことは止めて欲しいですね」と観客のマナーの悪さを批判した。テレビを見ていた私も不快な気持ちとなった。さて、最終18番ホール。両者とも譲らずグリーン上へ。B・ジョーンズが入ればバーディー。遼君も入ればバーディーである。B・ジョーンズが先にバーディーパットを行うが惜しくもはずした。すると先ほどもよりも華やかな拍手が起こる。こうなるとテレビで観ている私は怒りよりも恥ずかしい気持ちが先行してしまう。遼君がバーディーパットを決めて優勝した瞬間にはもちろん割れんばかりの拍手。相手が不利になった瞬間に拍手をするのはやはりマナー違反ではなかろうか。もちろん内心で「シメシメ」と思うのは仕方がないかもしれないが。以前中国でのサッカー試合で日本チームが得点できなかつたりすると割れんばかりの拍手が試合場に鳴り響き日本人にはひんしゅくを買ったものである。相手が自分と争っていて失敗した時には「お気の毒」「頑張ったのにね」という態度を表明するのがマナーではないかと思う(たとえ本心ではなくとも)。アジアでこういう事が多いのは「文化」の違いであろうか。

アメリカやヨーロッパ先進国に行くとき現地人のマナーの良い点が目立つ。混雑する電車のなか、道でそばを通り過ぎる時や買い物客で賑わう中を通り過ぎる時に「エックスキューズミ」などと言いながら無理やりの行為はしない。我が日本国ではさにあらず。電車やデパートなどでも無言で人を押しのけ先へすすむ紳士淑女が多いのにはあきれ返る。もちろん「ちょっと失礼」と言いながら押しのけていく紳士淑女もおみえになるが。近隣のアジア諸国に行ってもこういう状況は同じである。これも文化の違いといえようしそれ以上

のものでもないかもしれない。

面白いのは文明先進国へ留学する日本人。あちらでは向こうのしきたりになり
らいマナー良く接しているのに日本に帰るとまったく忘れて再び日本の紳士淑
女になってしまうことである。せめてマナーくらいはちゃんと身に着けて覚え
てくればいいのに。「お土産」で持って帰るのは「合理主義」という余分なもの
ばかり…。

(放射線科・名古屋広小路クリニック、副院長)